

学会記事

2024年度第1回執行理事会議事録

日程：2024年6月22日（土）13:00-16:00

【WEB会議】

出席：山路 敦、杉田律子、星 博幸、亀高正男、内野隆之、岩井雅夫、内尾（保坂）優子、大坪 誠、尾上哲治、加藤猛士（13:30-14:30中座）、小宮 剛、高嶋礼詩、辻森 樹、細矢卓志、松田達生、山口飛鳥、矢部 淳

監事：岩部良子、

オブザーバー：佐々木聡史（若手運営委員会）

欠席：坂口有人、山本正司（監事）

事務局 澤木

*定足数（過半数：10）に対し、執行理事17名の出席

冒頭山路会長より、今期は広報活動に注力することと各階層の活躍の場を整備し、特にシニア層の満足度向上を目指したい。執行理事各位には各担当の規則類をしっかりと確認した上で、委員会活動等を適切に運営してもらいたいとの挨拶があった。

報告事項

1. 全体的報告

・JpGU第30回学協会長会議（6/18開催）に山路会長出席。
・各種委員会メンバー及び執行理事の担当と緊急連絡先の確認

2. 運営財政部会（加藤・細矢）

1) 総務委員会

<共催・後援依頼、他団体の募集、連絡等>
・日本地球化学会より、2024年度日本地球化学会第71回年会（24/9/18-20；於金沢大学）への共催依頼があり、承諾した。

・地学オリンピック日本委員会より2024年度協賛団体加入依頼があり、協賛を承諾した。

・新潟大学学術資料運営機構より企画展示「生きた化石シャミセンガイ」（24/7/24-8/31於新潟駅南キャンパスときめいと）への後援依頼があり、承諾した。

・日本粘土学会より第67回粘土科学討論会（2024/9/4-9/6、於九州工業大学戸畑キャンパス）への協力依頼があり、例年通り後援として承諾した。

・東レ科学技術賞および科学技術助成候補者推薦依頼（学会締切9/13）【→News6月号、geo-flash掲載】

・令和7文部科学大臣表彰科学技術賞および若手科学者賞受賞候補者の推薦依頼（学会締切7/8）【→News6月号、geo-flash掲載】

<会員>

1. 今月の入会者(2団体、76名)

賛助会員（2社）：八千代エンジニアリング株式会社、共立工営株式会社

ジュニア会員（1名）：佐々木優心

正会員（75名）：一般会員（8名）赤松祐哉、

飯塚 陸、伊藤大智、大川真弘、國松 航、三島 郁、三輪学典、望月ちほ／学生会員（67名、うち単年度17、2年バック27、3年バック23）天野孝保、新井孝彰、池田芽生、池津雄地、石田昂汰朗、伊地知遼行、磯山未遊、伊藤 優、岩脇 望、大木可夏子、大河内砂恵、大津好秋、大森 涼生、小野寺隆也、河崎 陸、川並仁美、菊地泰生、喜多倅子、北代拓人、鬼頭岳大、金 鐵祐、桑原一平、玄田貴之、坂本賢太郎、島田知弥、島田誠明、島田昌弥、瀬川知希、高 慎一郎、高田直翔、高橋 慧、高橋慶多、高畑 彩、多久和風花、武田 与、辻本大暉、敦澤 陸、遠嶋美月、富樫琴美、中里政貴、中野 竜、中村一喜、中村侑己、野宮健太、橋本真由、長谷川未佑、波多野瑞姫、馬場日和子、PLAET ALVIN LORAN YAMAGUCHI、古川 且、前 圭一郎、眞次裕司、三木悠仁、溝口大世、箕輪桃子、向井一勝、村上慶介、村上瑞己、Mosekiemang Goitse、森駿介、八木寿々歌、山口季彩、山田真嵩、吉朝 開、葭井功輔、吉田達也、LIU BOFU

2. 今月の退会者（2名）

正会員一般：平野光浩、根本英利

3. 今月の逝去者（2名）

正会員シニア：石井久夫（逝去日不明、4月上旬）、門田真人（逝去日：2024年6月12日）

4. 2024年5月末会員数

賛助：31、名誉：34、ジュニア会員：5、正会員：3049〔一般2017、シニア853、学生179〕合計：3119（昨年比-30）

<会計>

・地学オリンピック日本委員会2024年度協賛金を支出予定。4口20万円

<その他>

・今後、規則類の整理と共有、会員数の整理と分析、会計収支の分析を進めて行く。

3. 広報部会（坂口・内尾・大坪・松田）

1) 広報委員会（坂口）

・6/21に新旧引き継ぎ会を開催し、HP刷新工程、SNS運営、ニュース誌の魅力向上策、プレスリリース等について議論を行った。

4. 学術研究部会（辻森・尾上・高嶋・山口）

1) 行事委員会（高嶋・山口）

・2024山形大会準備状況：

→6月26日 講演要旨締め切り

→6月29日 行事委員会にてプログラム作成

→LOCのご尽力により、会場費の減免措置が許可される模様。

→巡検案内書（A～Hの8コース）：受理済み（A、B、C、D、F）、1回目査読終了・小修正（E、H）、査読中（G）

→学生優秀発表賞のポスター審査：大会当日は混雑により十分な審査ができない状況にある。審査員の審査時間、質疑応答の時間を確保するため、優先時間帯や審査員を優先するように周知するなどの工夫が必要ではないかという意見があった。また、審査委員長（各賞選考委員長）には、集計結果、審査結果の情報を

適切に共有する。

・2025熊本大会：2025年9月14-16日実施予定。LOCの組織立ち上げ、巡検コースの選定、会場の検討はすでに実施済み。懇親会会場（熊大生協）もほぼ決定。ただし、200名以上の場合には応相談。巡検は現時点で9コース。承認が下り次第、案内書の執筆依頼を行う予定。

・2026金沢大会：LOC組織の立ち上げと開催日の決定を依頼した。金沢大で検討中。休日を含めた9月中旬～下旬開催で調整中。

2) 専門部会連絡委員会（尾上）

なし

3) 国際交流委員会（辻森）

なし

4) 地質標準化委員会（内野）

改訂版JIS A0205、地質年代日本語表記の一部変更案について、先月地質学会からその内容が妥当である旨を産総研のJIS事務局に伝えた。

5) 学術戦略WG（尾上）

なし

6) ショートコースWG（山口）

・委員の交代

（留任）山口飛鳥、亀高正男、菊川照英、下岡和也、桑野太輔

（新任）吉田健太、浜橋真理、石橋 隆

（退任）辻森 樹、矢部 淳、納谷友規、北村有迅

5. 編集出版部会（小宮・辻森）

1) 地質学雑誌編集委員会（小宮）

(1) 編集状況報告（2024年6月21日現在）

・2024年投稿論文：27（昨年比-2）〔内訳〕論説11（和文10、英文1）、報告3（和文1、英文2）、レター3（和文3）、ノート1（和文1）、フォト1（和文1）、巡検案内書8

・査読中：20、受理済み：2、入稿・校正中：8、130巻公開済み18件（203ページ）

2) Island Arc編集委員会（辻森）

(1) 編集状況報告

・投稿システムのプラットフォームがSchlorOneからREXに代わったことに伴い、査読システムも変更となる。近日中に、その旨、メーリングリストで会員に知らせる。

・IFは1.0となった。コロナ禍の影響が表面化したこと、高引用論文が掲載されなかったこと、中国で国際誌の発刊が増えたことが原因と考えられる。

2) 企画出版委員会（小宮）

令和7年度版学習資料「一家に1枚」企画募集があった。前回地質学会として企画した「日本列島7億年」から5年経過したので新たなテーマを検討する。

6. 社会貢献部会（矢部・岩井・大坪・坂口）

1) 地学教育委員会（岩井）

特になし

2) 地質技術者教育委員会（加藤）

・JABEE校の宣伝ポスター（2024年版）を全国の高等学校へ発送予定

・山形大会での地質系業界説明会（対面）の

応募は現状で35と昨年の京都大会での定員より超過。ブースのスペースや電源容量について確認する必要があるため、今後行事委員長とともに山形大を現地見予定。学生の集客に向け、SNSでの周知や、地質系大学教員への説明と学生への声かけ協力要請を行っていく必要があるとの意見があった。

3) 生涯教育委員会 (矢部)

・総会で地質学会の博物館対応について質問があったことを受け、委員会で議論した。現状でもニュース誌で博物館からの記事を連載しているが、さらに山形大会ではランチョンもしくは夜間小集会を開催することとした。
・博物館の数は多いので、ニュース誌での連載はもっと積極的に行った方が良い。また、地質学雑誌に寄稿してもらうことも有効であるとの意見があった。

4) 地震火山地質こどもサマースクール (岩井)

特になし

5) 地質の日 (矢部)

・日本記念日協会より5年ごとの現況確認があり、登録維持で回答、更新を行った。

7. その他執行理事会の下に設置される委員会及び組織

1) 利益相反マネージメント委員会 (亀高)

特になし

2) 若手育成事業検討WG (内野)

特になし

3) 表彰制度検討WG (亀高)

各賞選考委員会、各賞選考検討委員会よりいくつかが要望が挙がっており、今後優先度の仕分けを行っていく。

8. 理事会の下に設置される委員会

1) ジオパーク支援委員会 (矢部)

特になし

2) 地学オリンピック支援委員会 (坂口)

特になし

3) 支部長連絡会議 (杉田)

特になし

4) 地質災害委員会 (松田)

・防災学術連携体の7ヶ月報告会 (7/30, zoom & YouTube) は、井上卓彦会員 (産総研) に発表いただくこととなった。発表タイトル「2024年能登半島地震に関わる海域断層の分布と変位」

5) 名誉会員推薦委員会 (星)

特になし

6) 各賞選考委員会 (亀高)

特になし

7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会 (山口)

特になし

8) 法務委員会 (亀高)

特になし

10) 若手活動運営委員会 (星)

・山形大会の前日 (9/7) に「学生・若手のための交流会」を山形テルサで開催予定。交流会の詳細については学会HPに掲載予

定。

・若手巡検について (→審議事項へ)

9. 研究委員会

1) 南極地質研究委員会 (委員長 大和田正明)

特になし

2) 地質学研究会 (委員長 川村紀子; 杉田)

・2023年度委員会活動報告があった。学術大会ランチョンや法科学技術学会での学会発表や打ち合わせなどを行った。

10. その他

・巡検案内書WG (杉田)

まずは地質学雑誌での位置付けについて検討していく。前書き、編集後記、全体位置図など、巡検案内書に必要な記事についてJ-STAGEで適切に表示されることを望むとの意見があった。

審議事項

1. 地質若手巡検 in愛知県犬山地域の開催について (佐々木)

若手研究者の研究交流及び地質学会への新規入会促進を目的として、今年も巡検を実施する。10/26 (土) 日帰りを予定。昨年は宿泊の巡検を実施したが、「日帰り」の要望も多かったため、今年実施してみて、来年度以降の計画につなげたい。日帰りではあるが、見学地点を絞り、十分議論する時間を取るよう配慮した計画となっている。会期に合わせて、ニュース誌8月号等で適宜参加者を募集予定。

2. 自然史学会連合、JpGUからの科研費増額に関する要望書について

JpGUほか関連学協会連合等が連名にて、標記要望書の提出を予定しており、各加盟協会へ賛同が呼び掛けられた。地質学会として要望書に賛同する。ただし、その旨を返答する際に、今後提出先に確実に読んでもらえるように、次の3点を先方に提案する。1) ポイントを3点に絞る。2) 長ければ読まれないので、要望書の本文は1ページに収める。3) 要望内容が一目でわかる図表類 (ポンチ絵等) を添付する。

3. 学生優秀発表賞について (山口)

今年度は「受賞に値するか」の評価項目を削除し、「総合評価」という項目を追加する。評価コメントを発表者にフィードバックするかどうかについては、事務局・行事委員会の負担軽減と発表者への配慮から実施しない。審査員から評価コメントを集めないこととする。ただし、コメント自体は発表者のためにもなるので、聴講者、審査員が発表者に直接伝えてもらうよう促す。

4. プレスリリース廃止について (坂口)

近年は各大学や機関で積極的にプレスリリースを実施しているため、今後地質学会学術大会での「特筆すべき研究成果」のプレスリリースは廃止する。その他 (学術大会の案内、普及・教育イベントの案内、各セッションのハイライト) は従来通りプレスリリース

の資料を報道機関に配布する。なお、ハイライト講演の選出が行われていないジェネラルセッションでも、今後トピックセッションと同様にハイライト選出を実施する。詳細は行事委員会で検討する。

監事コメント (岩部)

これまでの課題だけでなく、これからの課題も沢山あると思うので、新たに加わった方も含め執行理事には学会員のために尽力して頂きたい。期待している。

以上

2024年7月19日

一般社団法人日本地質学会

会長 (代表理事) 山路 敦

署名人 執行理事 亀高正男

2024年度第2回執行理事会議事録

日程: 2024年7月20日 (土) 13:00-16:30

【WEB会議】

出席: 山路 敦, 杉田律子, 星 博幸, 亀高正男, 内野隆之, 岩井雅夫, 内尾 (保坂) 優子, 尾上哲治, 加藤猛士, 坂口有人, 高嶋礼詩, 辻森 樹 (15:30-16:30), 細矢卓志, 松田達生, 矢部淳, 山口飛鳥

監事: 山本正司, 岩部良子

欠席: 大坪 誠

事務局 澤木

*定足数 (過半数: 10) に対し、執行理事17名の出席

*前回24-01議事録案は、本執行理事会にて承認された。

報告事項

1. 全体的報告

・特になし

2. 運営財政部会 (加藤・細矢)

1) 総務委員会

<共催・後援依頼, 他団体の募集, 連絡等>

・蒲郡市生命の海科学館より、第15回地球惑星フォトコンテスト入賞作品展 (24/10/26-11/24) の共催依頼があり、承諾した。

・2024年度朝日賞 (自然科学) 推薦依頼 (8/26締切, 学会推薦8/5) 【→News7月号, geo-flash掲載】

・第46回沖縄研究奨励賞推薦依頼 (9/30締切, 学会締切9/5) 【→News8月号, geo-flash掲載】

<会員>

1. 今月の入会者 (3団体, 27名)

賛助会員 (3社) Nanjing Binzhong Instrument Co., Ltd., 株式会社中部森林技術コンサルタント, 山陰開発コンサルタント株式会社

正会員 (27名)

一般会員 (5名) 岩橋くるみ, 蘇 綾,

Conway Chris, Snyder Glen, 松井 昭
学生会員 (学生会員 (22) 単年度: 12, 2年
バック: 7, 3年バック: 3) 高山佳奈子,
Eyang Ondo Philomene Vanessa, 服部 海,
北條龍生, 小田結子, 久常見誠, 坂下福馬,
山形咲乃, 野左近督人, 戸田涼斗, 島野悠
作, 石川圭一郎, 改原玲奈, 岡田尚大, 永田
篤規, 山崎悠翔, 貞松夏実, 菅原葉々美, 杉
本優月, Pandey Abhishek, 小野誠太郎, 石
原康輝

2. 今月の退会者 (3名)

正会員一般 (3) 小杉裕樹, 瀬戸山功平, 高
橋宏明

3. 今月の逝去者 なし

4. 2024年6月末会員数

賛助: 33, 名誉: 37, ジュニア会員: 6, 正
会員: 3111 [一般2006, シニア864, 学生会
員 241] 合計3187 (昨年比+25)

<会計>

<その他>

・学生優秀発表賞エントリーに際しての会員
種別に対する会員からの問い合わせがあっ
た。現状、学生優秀発表賞は正会員 (学生
会員) のみがエントリーの対象となっている
が、正会員一般で会員登録している学生
から同賞にエントリーしたいとの希望があ
った。今回は、運営規則・各賞選考規則に
則り、当該学生に対し特別な措置をとらな
いこととした。ただし、今後は会員種別
に関わらず、学生であればエントリーでき
るように、検討していく。

3. 広報部会 (坂口・内尾・大坪・松田)

1) 広報委員会 (坂口)

・X (旧Twitter) の運用について: 7/10よ
り新理事体制で引き継いで運用開始。しば
らく大坪のみが運用し、現状把握と課題の
抽出を試みている。引き継いで以降、フォ
ロワー数が1992から2040に増加した。星副
会長から、今後専門分野が異なる複数の理
事からも発信していき、フォロワー数を1
桁増やしたい、旨のコメントがあった。

・次期ホームページについては、スマホ閲覧
に対応すること、会員と一般とで表示内容
を分けるなどを検討している。次回理事会
に改修案を提示予定。

4. 学術研究部会 (辻森・尾上・高嶋・山口)

1) 行事委員会 (高嶋・山口)

・2024山形大会準備状況:
→プログラム確定・大会サイトで公開を近
日予定
受賞記念講演は初日の表彰式内で行う。
ただし、時間的に余裕がないので進行の
管理をしっかり行う必要あり。
地質情報展が別会場 (山形テルサ) で行
われることを会員に注意喚起する。
→学術大会・懇親会参加登録 8月20日18
時まで
物価高や内容充実優先もあるが、懇親会
費が高額な印象を受ける。今後の大会で
は事前にLOCに金額面について相談す
る。

→巡検参加登録 8月1日18時まで

・申込期間が短く十分な集客ができない可
能性あり。HPで現状の申込数の表示と、状
況によっては締め切り延長も検討する。
→8/8まで延長する。

→巡検案内書 8コース中6コース受理済
み。1コース入稿中、2コース校正中、3
コースはJ-Stageに掲載済み。

・2025熊本大会:

特になし

・2026金沢大会

→9月12日 (土) ~14日 (月) が希望との
申し出有り。巡検は8コースを予定。

→演題登録期間やプログラムの編集・公開
作業に余裕を持たせるため (プログラム
掲載号をニュース誌8月号にする)、金沢
大会開催を一週間繰り下げできないか打
診する。ただし、なるべく大学 (LOC)
の意向を尊重する。この議論を受けて、
講演プログラムは早期にWEB公開がで
きる。ニュース誌の編集スケジュール
を優先して、演題登録期間が短くなる
のは好ましくない。ニュース誌 (プロ
グラム掲載号) の発送時期は参加登録締め
切りに間に合わなくても良いとの意見も
あった。

2) 専門部会連絡委員会 (尾上)

なし

3) 国際交流委員会 (辻森)

各国機関とのMOUの有効期間を確認する。

4) 地質標準化委員会 (内野)

なし

5) 学術戦略WG (尾上)

なし

6) ショートコースWG (山口)

7/21 (日) に第11回「微化石」を開催する。
午後の部については、演者の都合により延期
(日程は調整中)。高校生からの受講希望があ
り、事務局で別途対応することとする (参加
費無料で出席可とした)。

5. 編集出版部会 (小宮・辻森)

1) 地質学雑誌編集委員会 (小宮)

(1) 編集状況報告 (2024年7月17日現在)

・2024年投稿論文: 30 (昨年比-8) [内訳]
論説12 (和文11, 英文1), 報告7 (和文5,
英文2), レター4 (和文4), ノート1 (和
文1), フォト1 (和文1), 巡検案内書8

・査読中: 23, 受理済み: 2, 入稿・校正中:
4, 130巻公開済み24件 (295ページ)

・昨年に比べて投稿数が少ないので、投稿数
の増加を促す。

・最近エディタリジェクトされた論文につい
て、投稿前に事前に修正箇所を明示して、
再投稿を促した。編集委員長の負担軽減の
ためにも、このような案件対応をシニア会
員にサポートしてもらおう仕組みを作って
はどうか、との意見が山路会長からあり。

2) Island Arc編集委員会 (辻森)

(1) 編集状況報告

3) 企画出版委員会 (小宮)

著書「大地と人の物語」編集作業中。

6. 社会貢献部会 (矢部・岩井・坂口)

1) 地学教育委員会 (岩井)

高等学校での地学履修者は引き続き把握して
ゆく。

2) 地質技術者教育委員会 (加藤)

山形大会地質系業界説明会には52社に参加頂
ける。理事会に対して学生への周知をお願い
する。

3) 生涯教育委員会 (矢部)

糸魚川フォッサマグナミュージアムよりジオ
パーク企画展「地球時間の旅」について
News誌に投稿したいとの申し出があり、「博
物館・ジオパークで地球を学ぼう」に寄稿頂
くことにした。

4) 地震火山地質子どもサマースクール (岩 井)

今年度は徳島県三好市 (吉野川大会: 8/7-8)
で実施。来年度は御岳、再来年度は気仙沼で
実施予定。

5) 地質の日 (矢部)

なし

7. その他執行理事の下に設置される委員会 及び組織

1) 利益相反マネジメント委員会 (亀高)

なし

2) 若手育成事業検討WG (内野)

なし

3) 表彰制度検討WG (亀高)

7/13 (土) 会合開催 (→審議事項へ)

8. 理事会の下に設置される委員会

1) ジオパーク支援委員会 (矢部)

なし

2) 地学オリンピック支援委員会 (坂口)

・地学オリンピック日本委員会より問題作成
者の推薦依頼があり、会員2名を推薦した。

3) 支部長連絡会議 (杉田)

なし

4) 地質災害委員会 (松田)

防災学術連携体の報告会 (7/30) には欠席。
委任状を提出済。

5) 名誉会員推薦委員会 (星)

なし

6) 各賞選考委員会 (亀高)

なし

7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会 (山 口)

JpGUダイバーシティ推進委員会より委員選
出依頼があり、堀 利栄委員 (愛媛大学) を
選出した。次期委員長については確認中。

8) 法務委員会 (亀高)

なし

9) 若手活動運営委員会 (星)

委員会の性質上、今後も意識的にメンバの世
代交代を行っていきたい。

9. 研究委員会

1) 南極地質研究委員会 (委員長 大和田正 明)

なし

2) 法地質学研究委員会 (委員長 川村紀子; 杉田)

なし

10. その他
なし

審議事項

1. 巡検案内書の出版編集規則への追加について(杉田・小宮)

「巡検案内」というカテゴリの明記に伴い、細則案を作成した。学術大会巡検以外の原稿(単発分)も受け付ける可能性はあるが、まずは学術大会巡検の原稿作成に関する細則制定について検討することとする。次回の執行理事会までに修正案を提示する。

2. 各賞選考委員会の要望事項への対応：各賞選考規則・各賞選考委員会規則修正案(亀高)

・不利益を被る会員をなくすよう、受賞年齢制限のある各賞の年齢起点を「募集開始年の9月末日」から「募集開始年の4月1日」に変更。念のため、起点日について再度確認する。また、審査員が十分な評価ができるよう、推薦文の文字数を現在「400字以内」としている賞については、「800字以内」に変更する。変更内容については、十分な周知を行い、来年度から有効とした。次回8/31理事会に上程する。

3. その他

・山形大会に関して、新型コロナウイルスの今後の感染状況によっては、HP等で注意喚起を行う。

・地質学雑誌で故人を共著者に含めることを可とすることにするが、そうした論文では故人であることを脚注などで明記していただくことにした。

監事コメント

(岩部) 巡検案内書の地質学雑誌での扱いなど、様々な課題に丁寧に議論してもらい感謝する。

(山本) 会員数が今月プラスになったことは大変喜ばしい。学生が正会員であったために優秀発表賞にエントリーできなかった案件があったが、会員ができるだけ不利益を被らないよう、対応を考えて頂ければ幸い。

以上
2024年8月10日
一般社団法人日本地質学会
会長(代表理事) 山路 敦
署名人 執行理事 亀高正男

2024年度第3回執行理事会議事録

日程：2024年8月10日(土) 13:00-17:30

【WEB会議】

出席：山路 敦、杉田律子、星 博幸、亀高正男、内野隆之、岩井雅夫、内尾(保坂)優子、大坪 誠、尾上哲治、加藤猛士、小宮 剛、坂口有人、高嶋礼詩、辻森 樹、細矢卓志、矢部 淳、

山口飛鳥

監事：岩部良子

欠席：松田達生、山本正司(監事)

事務局 澤木

*定足数(過半数：10)に対し、執行理事17名の出席

*前回24-02議事録案は、本執行理事会にて承認された。

報告事項

1. 全体的報告

特になし

2. 運営財政部会(加藤・細矢)

1) 総務委員会

<共催・後援依頼、他団体の募集、連絡等>
特になし

<会員>

①今月の入会者(正会員学生 7名)

学生会員(単年度：3名、2年バック：3名、3年バック：1名)：飯澤彩羽、鈴木岳斗、矢口朔子、古庄航輝、石川創士、吉田 颯、出口琢磨

②今月の退会者 なし

③今月の逝去者 なし

④2024年7月末会員数

賛助：35、名誉：37、ジュニア会員：6、正会員：3136[一般2009、シニア864、学生263]合計3214(昨年比-29)

<会計>

特になし

<その他>

・7/25(金)に第1回総務委員会を開催した。今後は、規則の整理、会員数の分析、学会財政に取り組んでいく。また、選挙システムの修正検討を行う。

3. 広報部会(坂口・内尾・大坪・松田)

1) 広報委員会(坂口)

・Webサイトリニューアルの構成案(内尾)(→審議事項へ)

・Xの運用(投稿)を活発に進めている。フォローは2100に増加した。

4. 学術研究部会(辻森・尾上・高嶋・山口)

1) 行事委員会(高嶋・山口)

・2024山形大会

→Geoheritage(平成新山・喜界島)の説明会開催について、山形大会9月10日の口頭会場1(112教室)ランチョンの時間帯を提供する。

→緊急展示を募集する。申込締切8月29日(木)。大会中3日間掲示するが、コアタイムは9月9日の一日のみを予定。世話人は、応用地質部会の山崎新太郎会員。

→プレスリリースと記者の出入りについては、例年同様、大会受付で報道関係者専用名札を渡すことで対応する。

→巡検および巡検案内書：巡検は全てのコースが最少催行人数を上回り、実施可となった。案内書は受理6件、修正中2件。

→現在、世話人に「シンポジウム・セッションハイライト」を依頼中。

→理事には、積極的に優秀発表賞・ジュニ

アセッションの審査員登録をお願いしたい。

・2025熊本大会

→巡検案内書の最新版を確認した。次回理事会に上程する。

→地質情報展と市民講演：会場は熊本城ホールを予定。市民講演については恐竜関係のテーマで調整中。

・2026金沢大会

→日程はやはり9/12-14日をお願いしたい。次回理事会に上程する。

→Zoomでの説明会を8月中に実施予定。

2) 専門部会連絡委員会(尾上)

特になし

3) 国際交流委員会(辻森)

特になし

4) 地質標準化委員会(内野)

特になし

5) 学術戦略WG(尾上)

特になし

6) ショートコースWG(山口)

・7/21、7/28に第11回「微化石」を開催した。7/21「微化石一般と放散虫」講師：松岡 篤(参加者60、うちCPD希望26)、7/28「微化石データ活用の最前線」講師：林 広樹(参加者39、うちCPD希望18)。両回とも動画視聴可として参加者に対して視聴用URLを案内した。アンケート結果集計中。

・次回以降の予定を理事会で報告予定。

5. 編集出版部会(小宮・辻森)

1) 地質学雑誌編集委員会(小宮)

(1)編集状況報告(2024年8月8日現在)

・2024年投稿論文：33(昨年比-9)[内訳]論説14(和文12、英文2)、報告8(和文6、英文2)、レター4(和文4)、ノート1(和文1)、フォト1(和文1)、巡検案内書8

・査読中21、受理済み0、入稿・校正中4、130巻公開済み26件(328ページ)

2) Island Arc編集委員会(辻森)

(1)編集状況報告

・現在、新投稿・査読システム(REX)への移行期間中。新規投稿のみ新システムで受付、投稿中原稿は受理まで旧システム上で処理する。査読処理の際一部で問題が発生している。

3) 企画出版委員会(小宮)

特になし

6. 社会貢献部会(矢部・岩井・坂口)

1) 地学教育委員会(岩井)

・山形大会ジュニアセッション(コアタイム9/8)の申し込みを締め切った。11校21講演を予定。理事に対して審査依頼を行った。大会へ参加する理事の方々にはぜひ審査にご協力いただきたい。

2) 地質技術者教育委員会(加藤)

・9/9(月)の対面での地質系業界説明会では基盤教育1号館の3つの教室を使用して開催する予定。オンライン説明会は9/13(金)に開催予定。執行理事会・理事会の先生方には、学生への参加案内の周知にご協力い

ただきたい。

3) 生涯教育委員会 (矢部)

今後、地学教育委員会との合同事業を検討中。

4) 地震火山地質子どもサマースクール (岩井)

吉野川大会 (2024/8/7-8) は無事に終了。今後Youtubeでも配信予定。

5) 地質の日 (矢部)

来年度は幕張でイベント開催予定。

7. その他執理事務会の下に設置される委員会及び組織

1) 利益相反マネジメント委員会 (亀高)

特になし

2) 若手育成事業検討WG (内野)

特になし

3) 表彰制度検討WG (亀高)

特になし

8. 理事会の下に設置される委員会

1) ジオパーク支援委員会 (矢部)

特になし

2) 地学オリンピック支援委員会 (坂口)

・地学オリンピック支援委員会第19回議事録 (2024.3.23開催)。HP公開済み【報告資料】

3) 支部長連絡会議 (杉田)

特になし

4) 地質災害委員会 (松田)

・7/30 (火) 13時より令和6年能登半島地震・7ヶ月報告会が開催された。ウェビナーやyoutubeでも配信された。最初の講演で、地質学会から産総研の井上卓彦氏による能登半島地震の地質学的な海域の活断層調査の講演があり、産総研のシームレス地質図などの紹介もあって有意義なものとなった。

5) 名誉会員推薦委員会 (星)

特になし

6) 各賞選考委員会 (亀高)

・委員候補者を次回理事会に上程する。

7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会 (山口)

特になし

8) 法務委員会 (亀高)

特になし

9) 若手活動運営委員会 (星)

・学生・若手のための交流会 (9/7, 土曜) の広報を学会HP、メルマガ、若手メール配信で行っている。

・若手巡検・研究集会 (10/26, 土曜) の広報を学会HP、ニュース誌、メルマガ等で行う。

9. 研究委員会

1) 南極地質研究委員会 (委員長 大和田正明)

特になし

2) 法地質学研究委員会 (委員長 川村紀子; 杉田)

特になし

10. その他

特になし

審議事項

1. 第39回 (2024) 京都賞 ポール・F・ホフマン氏の受賞に際して (山路)

・地質学者の「京都賞」受賞は大変喜ばしいことであり、地質学会としても何かしらの対応を取りたい。ホフマン氏と親しい磯崎行雄会員にニュース誌へ寄稿頂いているが (ニュース誌8月号掲載予定)、地質学雑誌にもより一般向けの内容として寄稿頂けないか打診したい。ただし、京都賞の授賞式は11月中旬なので、それまでに刊行されている必要がある。その他、ホフマン氏へのインタビューや、氏と若手研究者との対談の場を設け、その記事をジオルジュ来春号に掲載するという案も挙がった。東京での受賞イベント企画者でもある磯崎会員に、地質学会で協力できることがないかを相談する。

2. Webサイトリニューアルの構成案 (内尾)

・基本方針が承認された。会員・一般向けの様々な内容が混在している「普及と教育活動」という項目については、名称を見直した方が良いとの意見あり。その他の意見も含め内容を再検討し、8/31理事会に修正案を提示する。その他意見は以下の通り。

→出版物カテゴリーの第一項目がIsland Arcとなっているが、出版自体はWilley社なので、配置箇所が現状のままでも良いか要検討。/一般向けの内容は別出しにできないか。/JABEE, CPD, 研究委員会, ショートコースなどの配置を再検討してはどうか。/協賛企業 (賛助会員) のバナーをトップページ下底に載せるなら、会費増額もあり得る。

3. 学術交流協定 (MOU) 更新について (辻森)

・一部協定の締結期間が終了しているものがある。これらについて引き続き更新することが確認された。特にタイ地質学会とロンドン地質学会については早急に更新を行う。現在は5年ごとに都度更新を行っているが、国によっては自動更新するという方法も検討したい。

4. 巡検案内書に関する規則改正等について (杉田・小宮)

・前回の執理事務会で学術大会巡検案内書については細則を設けることが決定され、今回その修正案の内容について承認された。

・現在J-Stage上でバーチャル特集号となっている巡検案内書に、冊子体時代に掲載されていた序文や安全のしおり等をどう載せるかが議論された。山形大会では安全のしおりはDOIが付与されJ-Stageで公開される予定である。次回熊本大会からは巡検コースの一覧、コース全体のエリアマップ、

編集委員名・査読者名を巻頭言と合わせプリフェイスとして用意し、安全のしおりとともに一つのDOIを付与してJ-Stage上で巡検案内書に付録することが確認された。また、巡検が中止されたり、案内書が作成されなかった場合には、その旨をエラータ記事としてアップすることで対応する案が出された。

・地質学雑誌編集委員長から、「報告」カテゴリーの規約にある「議論を含めない」を削除したいとの提案があった。理由は、①「議論」の基準があいまいなこと、②この文言があるためにリジェクト扱いとなる原稿があることが挙げられる。執理事務からは、賛成・反対の他、「報告」カテゴリーは不要で議論のないデータはリポジトリ (J-STAGE Data) に登録すれば良いとの意見があった。本件については、報告カテゴリーが設定された当時の経緯やこれまで公開された報告原稿の内容も精査しつつ、継続審議とする。

5. 各賞選考委員会の要望事項への対応: 各賞選考規則・各賞選考委員会規則改正案 (亀高)

・小澤・柵山賞の受賞資格について、不利になる対象者が最少なくなるという条件として、「募集年の3月1日で学位取得5年以内」が示され、承認された。次回理事会に上程する。

6. 理事会審議事項の確認

①各賞選考規則、各賞選考委員会規則の変更提案

②各賞選考委員の承認

③地質学雑誌投稿編集出版規則改正案及び巡検案内書に関する細則案

④2025年熊本大会の巡検コースの提示と2026年金沢での実施の承認

⑤その他

監事コメント (岩部監事):

学会の新ウェブサイトについては、他のサイトも参考にして、会員のみならず一般にも見やすい構成・内容にして欲しい。期待している。地質学雑誌の報告カテゴリーについては、過去に行われた議論も確認しつつ、近年盛んになっているリポジトリという方法も含め、今の時代に適したものとして検討して欲しい。地質学会の各賞の条件となる年齢についても、できるだけ不公平にならないように考えてもらいたい。

以上

2024年8月28日

一般社団法人日本地質学会

会長 (代表理事) 山路 敦

署名人 執理事務 亀高正男